

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2071200162		
法人名	北アルプス広域連合		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家		
所在地	長野県大町市大町 8 0 3 5 番地 (電話) 0261-22-0497		
評価機関名	特定非営利活動法人アイネット SAKUMA		
所在地	長野県松本市大字芳川小屋 5 0 8 番地 3		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(平成19年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造・一部鉄筋RC造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(12月17日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名	
要介護1	2名	要介護2	1名			
要介護3	3名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	88 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団厚生会横内内科医院/ 地域医療財団豊科病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家は大町市の南側に位置し静かな住宅地の中に養護老人ホーム鹿島荘と併設されており、設置者は北アルプス広域連合である。
定員は6名で家庭的な雰囲気が醸し出され、ゆったりした空気が流れており利用者本位の支援を気負うことなく自然体で職員は行っている。建物内もドアの設置など利用者の動きを妨げないよう配慮され、木の温かみをうまく活用された造りとなっている。
開所時からの利用者が殆どで、馴染みの関係も構築され、穏やかな表情で利用されていた。家族会も泊まりで行うなど職員・家族の交流も良好である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 誰でもが見れる様に評価結果を提示されていた。前回も要改善点等はなく取り組みの精度を高める趣旨で受審した。近隣の人々との交流については利用者の重度化が進み、思いはあっても状況は厳しいが、工夫しながら交流をされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会とは別に、全職員(パート含む)で自己評価を行なっている。その際、自己点検は勿論だが改善点が挙げればただちに改善に着手している。また、外部評価の結果は回覧されるとともに職員会で報告されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域との行事や合同防災訓練等の際、運営推進会議の委員の方々にもできる限り参加していただき一緒にサービスの向上に努めている。設置運営が広域連合である為、連携・相談等他の速やかに行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 定期的には家族会の折に、それ以外の場合は、面会時に日々の様子をお知らせしたり、必要時にはこまめに電話連絡により報告している。また、家族会のお知らせに合わせ、担当者から近況報告するよう努力している。来所時や近況報告の中で意見等を聞き取れる努力をし、言いやすい雰囲気作りを心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設の施設との行事や訪問の機会を捉え、積極的に交流を実施していたが、利用者の重度化により状況を確認しながら行っている。長年、地域との連携は構築されており良好である。近隣の方は、利用者が施設外に出てしまった時など無理に止めるのではなく、花の話などしながら引き止めて連絡を下さる関係である。

2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	併設の養護老人ホームが地域に根ざして来た事がグループホームに生かされている。ホーム名ひだまりの家の言葉「ひとりひとりを尊重しであいをだいにマイペースでおたがいをりかいしよう。いつも心にひだまりを」が理念に取り入れられている。		理念はそのグループホームの方向性や良さを示すものです。利用者・家族等のみならず広く地域住民等への広報する事も必要かと思えます。パンフレット・広報誌などに明記する取り組みを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に誰でも解り易いよう提示されている。職員会などで確認し、基本方針と共に利用者への質的向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭やゲートボール場等に施設を開放している。利用者の状況が変わり活発に参加することは厳し状況ではあるが、地域の中に自然に馴染んでいる。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員（パート職員含む。）で独自に自己評価を行い、改善が必要な事項については、全職員で検討し、速やかに対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催している。事業、行事計画及び防災訓練等について、報告や協議がなされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者である北アルプス広域連合が設置者という特殊な事業所である。そのため、市町村との連携が取り易く、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族会や面会時に利用者の状況等を報告している。また、緊急な事項についてもしっかり対応されている。金銭管理については、利用者が直接支払う物については預かっているが、基本的には家族や後見人等に管理をして貰っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪、面接時等で把握されている。全職員がその状況を共有出来る体制が構築されている。また、苦情等が生じた利用者、家族については、担当者が受付し、第三者委員を交えながら問題解決に当たっている。</p>		<p>利用者、家族は、職員に直接には相談しがたいこともあるかと思います。第三者委員等外部者に表せる機会（家族会などに複数回に参加してもらい、苦情を言い易い信頼関係を構築していただく。）を設けて頂く事を望みます。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>正規職員は広域で異動等あるが、臨時・パート職員は長期雇用出来る様に体制を整え、職員が変わることへのダメージを最小限に抑えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少ない職員体制の為、満足な研修会議を持つ事が厳しい状況ではあるが、本人が希望する研修は自由に受けるようにしている。研修内容については研修後の報告会や資料回覧などにより他の職員へも周知する機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県グループホーム連絡会に加盟されている。様々な研修会や他の事業者との交流する機会に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の全てが独居者であり、家族も遠方の方が多い。ほとんどが開所時からの利用者であり、既に顔なじみで穏やかにすごされていた。初回利用時には、特に生活観察に配慮し、施設に馴染めるよう特段の配慮がなされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人と共に生活する環境作りに努力されている。衣食住支援は利用者がこれまでの生活体験を尊重し、その人の生き方を支援している。利用者主体の生活を支援しつつ、職員自らも学ぶ事を通じ、自然な関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>これまでの利用者ひとり一人が生活してきた経過をもとに、これからの希望を踏まえながら、その利用者本位の生活を取り入れている。意思表示の不十分な利用者には、表現行動を見ながら支援するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成に当たっては、利用者の生い立ちや家族・関係機関の意見等を参考にしながら、それぞれの利用者に適した支援方法を検討し、支援を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>問題が起きる起きないに関わらず、定期的に支援方法を検討している。改善すべき事項については、家族等に相談しながら現状に即した計画を作成している。</p>		<p>利用者の生活状況に様々な変化や事故等が発生する事が予想されます。併設職員が兼務している関係もあり、LANシステムで併設施設と繋げる等、併設職員がいち早く状況等が把握できるシステムの改善を望みます。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族会を泊りがけで行う等、積極的にその時々々の要望を聴取している。聴取した内容を加味しながらその時々々に即した支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の利用者・家族の意向を踏まえて対応している。利用者の多くは協力医を主治医としているが、専門医が対応する必要がある利用者については、専門医がかかりつけ医となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設としての方針を遵守しながら利用者が一番最適な状況を絶えず模索されている。重度化や終末期のあり方は本人・家族・医療・職員でそのケース毎に頻繁に連絡を取り確認されている		今後避けてはいけない内容と思います。細部に注意をされ其の時にベストの状況になるよう更に密なる状況確認などに努めて頂く事を望みます。利用者の家族が遠方に住まう方が多いとの事、時間・連絡経費等を費やす事が大変かと思いますが特に連絡確認は重要と考えます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生き方を尊重し、尊敬を抱きながら声がけ等の支援を行っている。記録等は個々にファイリングされ個人情報の取り扱いに注意を払っている。		個人情報の取り扱いについて提示等により、さらに来訪者に理解を求められる事を望みます。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活暦・価値観を熟知し、その人らしい生活が送れるよう利用者本位の支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況を加味しながら、献立を作成している。利用者は出来る範囲で職員に協力し、準備・調理・片付けを行っている。食堂には音楽が流れ、時には食後に利用者が昔懐かしい歌を披露されて場を盛り上げている。職員は利用者に配慮した支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後に入浴する事を基本としている。夜間はあまり起きることなく就寝されている。		浴室の手すりなど設置済みではある。来年度に浴槽の改修を計画されていると言う事ではあるが、現在の浴槽への入り難さを解消し、今以上の環境が整うことを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちに沿うよう、一人ひとりの生活歴やADL・希望に配慮している。生きがいを感じるよう、自然体で支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の大型店での買い物・畑仕事等工夫され支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で勉強会を開き、あらゆるケースを取り上げ、利用者を尊重した生活が出来るように心掛けている。施錠は一切行わないが、入口にはセンサーを設置され、利用者の安全に留意されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と連携がなされており、防災設備も整えられている。また、防災訓練等も併設施設と同時に行われている。地域住民の協力も得られ、防災会議には関係機関・地域住民も交えて開催するとともに、訓練も行われている。防災マップ作りも行われていた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日の状態を確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立が作られている。これを基に利用者の状況(疾病)にも留意し、カロリー過多にならないように配慮されている。栄養状態の悪化時には、高カロリー食に変える等利用者の状況をみながら支援されている。また、入浴後の水分補給等も行われていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は天窓採光により明るい。季節により日差しの強さを和らげる工夫をされている。耳障りにならない様に配慮しながら、静かに音楽が流れている。居心地の良い環境作りをされていた。季節感を感じる飾りなどがされていた。(お雛様・花等)		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室には、写真・家具・趣味の持ち物などが持ち込まれ、居心地が良く過ごせる様にされていた。		

 は、重点項目。